

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	経営情報システム論		
英文授業科目名	Management Information Systems		
開講年度	2006年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期・後期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	情報システム学研究科-情報システム運用学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	情報システム運用学専攻		
担当教官名	田中 健次		
居室	P - 5 0 9		

公開E-Mail	授業関連Webページ
tanaka@is.uec.ac.jp	http://www.tanaka.is.uec.ac.jp/index_j.htm

【講義の狙い, 目標】

リスクマネジメント論に焦点を絞って講義を進める。情報システムを設計、運用する上でリスクマネジメントの知識は極めて重要であり、技術、経営、法律等多くの観点からのアプローチスキルを身に付けることは、今や技術者には必須の条件である。多くの実例を交えて、情報システムのトータルセキュリティの考え方や問題点、波及効果、それらの対策について学ぶ。

【内容】

情報システムは一般に構成要素が多く、使用者が不特定多数である上、使用目的の変化など環境変動が著しいため、その挙動の認識や将来予測が難しい。そこで、情報システムを「生きた」システムとして理解し、以下の3つの観点から、リスクマネジメントの問題にシステムズアプローチする。

・システム技術レベル：

システムの信頼性、安全性を理解するうえで、従来の信頼性理論では見落される点などを明らかにし、情報システム自体のセキュリティとそれを利用する人を含めたトータルなシステムセキュリティについて論ずる。人体の免疫機構など生体内に存在する自律分散機構をセキュリティ対策に利用することも期待されており、それらも紹介する。

・組織・運用レベル：

マンマシンシステムとしての適応的な運用、保守組織体制の必要性、安全確保の方法論を論ずる。みずほ銀行のマネジメント失敗例など組織事故を紹介する。

・社会レベル：

社会的脅威を概観し、インターネットにおけるトラブル、例えばプライバシー保護、著作権の問題などを論ずる。また、医療情報システム、災害情報システムなどの普及に伴って生じるリスクとその対応につ

電気通信大学 平成18年度シラバス

いても議論する。

【教科書，参考書】

特に教科書は使用せず、配布資料をもとに行う。

参考書：(1)「システム知の探究1」(日科技連)木嶋・出口編
(2)「マルチメディア社会システムの諸相」(日科技連)高木・木嶋編

【予備知識】

基礎科目「情報社会科学基礎」程度の知識を有する事が望ましい。

【演習】

講義を対話的に進め、適宜、ディスカッションの場を設ける。

【成績評価】

出席評価を中心とし、レポートまたは試験による点を加点する。

【その他】

情報システムの設計/管理者にとって、情報システムの弱点とその対策を理解し習得することは、必要不可欠なことである。IS研究科のすべての学生が受講することを望む。